

# CONTENTS

# 大阪消防 4

表紙：石川県輪島市にて  
活動中の消防隊員

|                                      |                                   |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 01：コンテンツ／災害概況                        | 28：一緒に備えましょ！災害いつなんどき              |
| 02：ケイボウタイムズ<br>ー 令和6年能登半島地震 ー        | 29：消防漢字ガール                        |
| 10：【職務】令和6年度消防局運営方針について              | 30：救助工作車がかっこええん車                  |
| 12：【職務】令和6年春の火災予防運動<br>オープニングイベントを開催 | 31：落語DE火の用心                       |
| 14：Just Do It！                       | 32：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより             |
| 17：2025年大阪・関西万博                      | 33：救急安心センターおおさかだより／高齢者叙勲          |
| 18：実録!!調査鑑識                          | 34：【職務】防火管理等講習のオンライン化<br>を推進しています |
| 20：救急いろは                             | 36：現場に活かす!救急救命士国家試験問題             |
| 22：We are Rookies！                   | 37：九条みなみの昇任試験問題研究所                |
| 24：消防職員意見発表会                         | 38：こんな声届いています！                    |
| 26：大阪の消防NEWS                         | 39：Another Voice～こちらは指令情報センターです～  |
|                                      | 40：アニマル環状線／編集後記                   |

## 大阪市の災害概況

### ◎火災概況

|               | 建物火災 |    |     |    | 小計  | 車両 | 船舶 | 爆発 | その他 | 合計  |
|---------------|------|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|
|               | 全焼   | 半焼 | 部分焼 | ぼや |     |    |    |    |     |     |
| 2月中件数         | 2    | 2  | 5   | 28 | 37  | 3  | 0  | 0  | 7   | 47  |
| 令和6年<br>2月末累計 | 2    | 2  | 27  | 68 | 99  | 11 | 0  | 1  | 8   | 119 |
| 令和5年<br>2月末累計 | 6    | 6  | 24  | 67 | 103 | 3  | 0  | 0  | 8   | 114 |
| 累計比較          | ▲4   | ▲5 | 3   | 1  | ▲4  | 8  | 0  | 1  | 0   | 5   |

### ◎救急概況

|               | 救急出場   |
|---------------|--------|
| 2月中件数<br>(概数) | 20,978 |
| 令和6年<br>2月末累計 | 44,539 |
| 令和5年<br>2月末累計 | 40,904 |
| 累計比較          | 3,635  |

### ◎火災・救急以外の消防活動概況

|               | 救助活動 | 危害排除 | 水防活動 | その他の<br>消防活動 |
|---------------|------|------|------|--------------|
| 令和6年<br>2月末累計 | 756  | 194  | 0    | 165          |
| 令和5年<br>2月末累計 | 700  | 184  | 0    | 218          |
| 累計比較          | 56   | 10   | 0    | ▲53          |

## 大阪府大隊長としての重責を担って



### 外前田 博

大阪府消防局警防部司令課 南方面隊長  
緊急消防援助隊大阪府大隊  
大隊長

第1次派遣の大阪府大隊の大隊長として、大阪府内の消防職員総勢約200名、消火・救助・救急など全54隊を率いて活動全体の指揮を執った。

―大隊長として出動となった時の心境はいかがでしたか？

報道カメラで映し出された倒壊現場をテレビで見ても、膝が震えるほどの衝撃を受けました。勤務中に揺れを感じて、最初はまさかと思った次の瞬間に再びやってきた大きな揺れ。出動は確実だと思い、すぐに準備を始めました。

消防職員として38年間勤務してきましたが、実は緊急消防援助隊としての派遣経験はありませんでした。統合機動部隊として出動体制の取りまとめにあたり、数時間後に出発する即応隊が集まった段階で、大阪府大隊長として全体の指揮を担う……そんな発災時のマニュアルを読んではいましたが、実際の活動経験のない私は、いまひとつイメージできなかった。何より、正直なところ相当な重責でもありました。

その一方で、一緒に向かった隊員たちは、緊急消防援助隊の経験もあり訓練も重ねています。あらかじめ決められた資器材などを手際よく段取りしてくれて、「とりあえず隊長は、全体の調整役として、どんと構えといてくだ

さい」とのこと。頼もしく思いつつも緊張しながら、石川へ向けて出発しました。

―現地での活動はいかがでしたか？

なんとか大隊長の職責を果たせたと思います。現地入りするまでは心配しましたが、大阪府大隊のみなさんのおかげですね。大隊長として様々な指揮・調整役としての役割を果たせたかなと思うのは、進出拠点の金沢競馬場に大阪府大隊が集結した時点で、「大阪」として力を合わせるといふ思いを、各部隊の指揮者との間で共有できたことです。大阪府内から複数の指揮隊が出動していますので、お互いの良好な関係性を作ることが、何より重要だと考えていました。作戦や方針の違いなどからギクシャクすることがないように、各指揮隊だけでなく警察などの他機関も含めて、それぞれの役割分担を明確に決めてから活動をスタートできたことは、良かったかなと思っています。

調整役には、何よりコミュニケーション力が求められると思いますが、私自身、指令情

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。

新連載「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

第1回目は、地震等の大規模災害対応などを所管する警防対策担当です。



## ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

### 第1回 警防対策担当

令和6年能登半島地震  
緊急消防援助隊大阪府大隊

### 派遣隊員インタビュー

輪島市河井町で安否不明者の搜索活動を実施している派遣隊員(1月5日午前)

## 緊急消防援助隊での活動を終えたいま、派遣隊員が「あの瞬間」を振り返る

令和6年1月1日(月)16時06分頃、最大震度5強の地震が観測され、その4分後の16時10分頃、最大震度7の地震が石川県能登地方で発生し、日本海沿岸の広範囲で津波が観測されたほか、輪島市街地では大規模な火災が発生するなど、甚大な被害が出ました。ここに改めて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

この震災を受けて、大阪府内全26消防本部で構成され、石川県輪島市に派遣された緊急消防援助隊「大阪府大隊」。2月2日(金)に活動を終了するまでの派遣総数は、延べ459隊、1575名に上りました。隊員たちは、吹雪と強い余震が頻発する中で、懸命に人命救助、消火及び救急活動等に従事しました。その結果、発災から72時間後に一人の女性を生存救出することができました。

本稿ではこの度の緊急消防援助隊の派遣において、活動・指揮にあたった4名の隊長・小隊長に、現地での活動の様子や、それぞれが胸に抱いた想いなどについて語っていただいた「生の声」をご紹介します。派遣隊員たちの経験を語り継ぐことで、近い将来、高い確率で発生が危惧される南海トラフ巨大地震への備えの一助になれば幸いです。



報センターでの勤務が長かったことが、少しは役に立ったかもしれません。

―道路が寸断される中で、輪島市に向かわれたのです。

輪島市は能登半島の奥に位置しますので、もともと向かうルートが限られています。その上、メインの道路が全て使えないという状況でしたが、一刻も早く、歩いてでも輪島に向かおうという思いで動きました。道路の隆起、がけ崩れ、立ちふさがる大きな岩……そんな困難な状況を突破できたのは、地元の消防や自衛隊の方々の協力あったことです。そのおかげで2日の午後2時頃に、輪島市に到着することができました。

―通信も途絶えていたと伺いました。

そうなんです。輪島市までの道中、衛星電話をはじめ、携帯電話も無線も通じなかったので、輪島消防署へこちらの状況を伝えることができませんでした。「かなり遅れる」とい

う連絡を入れていた県隊が、結局、輪島市に向かえなかったこともあって、大阪の部隊も輪島入りは無理だろうと思われていたようです。そこへ、思いがけず我々が到着した。よくやってきてくれたと、それは喜ばれました。

輪島市内の被害も大きく、職員自身も自宅が倒壊するなど被災されている。極度の疲労に加えて親戚など身内がお亡くなりになるなど、精神的にもダメージが大きい。そんな状況下で、県外から応援隊がやってきたことで、安心感や希望が沸き上がってきた……派遣最後の日の別れ際、涙ながらに語られた輪島消防署の署長の言葉に、こちらも思わず胸が熱くなりました。

―最後に、指揮者として一番、大切にされたことをお聞かせください。

一緒に活動する人達を、まずは信頼することかなと思います。こちらが信じれば、相手もこちらを信頼してくれるもの。「任せるで」と言葉で伝えたら、全力で任務に当たってくれる。指揮者に求められるのは、そうやって

―発災時は、どんな状況で出動されたのですか？

地震が発生した元日の夕刻は、通常のローテーションで勤務中でした。大きな揺れで震源は石川県、間違いなく緊急消防援助隊の出動になるだろうと予測はしましたが、17時頃に「(消防局警防課長から)堺指揮隊長として出動してもらうことになりそうだ」と電話連絡を受けたときは、まさしく寝耳に水。正式な出動指令後では遅いので、作業服に下着、洗面道具からヘッドライトの電池まで、必要な物を準備し始めました。食事についても、すぐに後方支援隊に頼れない状況もあり得ます。コンビニに行く暇もなく、とりあえずお正月用に買ってあったお菓子なんかも詰め込んで、集合場所の高度専門教育訓練センターへ向かいました。

―被災地までの道中は、とにかく大変だったと聞きます。

22時40分頃に石川県に向けて出発し、進出

チームワークを築き上げていくことなのかなと、活動を振り返って思います。



進出拠点の金沢競馬場（1月2日午前）

拠点の金沢競馬場に着いたのが2日の早朝5時頃でした。先に現地入りしていた統合機動部隊の指示を待って、穴水消防署に向けて出発できたのは、11時45分のことです。ですが、土地の隆起で道路に段差があり、車を思うように進められない状況でした。毛布やホースブリッジといった消防の道具など、車で踏んでも大丈夫な物をフルに使い、なんとか乗り越えようとしたのですが、至る所に数十センチの段差ができており車を思うように前進させることができませんでした。結局、14時前に統合機動部隊から「道路寸断のため輪島消防署への到着は困難、宿営地へ帰隊し待機せよ」との指示がきた……。夜通し走って現地に入り、少しでも早く救助活動を実施したいという気持ちでいますから、あの時は、悔しくて泣いている隊員もいました。

2日夜に、翌朝ヘリが飛ぶという情報が入り、なんとか救助隊だけでも先に送りたいということになりました。救助隊員12名と最低限の資器材だけを積み込む段取りをしたのですが、天候が悪化し、結局、ヘリは飛ばないことになりました。幸い3日に救助隊員の1

## 道路も情報も途絶えて向かった現場で

頓宮 勝

堺市消防局堺市高石消防署 第1警防課長  
緊急消防援助隊大阪府大隊  
指揮隊長

大阪府大隊の指揮隊長として即応隊 25 隊を率いて被災地に入り、市ノ瀬町の大規模な土砂災害現場などに出動し指揮活動を行った。

タイムイズ





市ノ瀬町での活動の様子（1月4日午後）

時間後に、その同じ道が再び土砂崩れで通れなくなっている……そんな状況でした。

―それでも、なんとか全隊が現地入りできたのですね。

幸運にも珠洲市にルーツのある隊員がいて、通行できる陸路を堺指揮隊単独で探索し、なんとか車両が走れるルートを確保できました。そのおかげで、3日の22時に、なんとか全隊が輪島消防署に到着し、4日に市ノ瀬町の土砂崩れの現場で活動しました。

最初の情報では、民家が川に流されたということだったんです。ところが行ってみると、実際は崩れて川のようになった土砂に、民家が押し流された現場でした。帰阪する最終日でしたが、限られた時間の中で家屋の瓦礫を取り除く作業に当たりました。現地入りに時間を要したため、実質的な活動時間は限られてしまいましたが、次に到着する隊につなげるために、即応隊として最後まで隊員が一丸となって、全力で活動に当たりました。

## あきらめなければ状況は変えられる



田中 真也

大阪市消防局警防部警防課 本部特別高度救助隊長  
緊急消防援助隊大阪府統合機動部隊  
救助隊長

救助隊長として、土砂災害現場での検索活動や、倒壊した建物からの救出活動を行った。

―どんな状況で被災地に向かわれたのですか？

携帯電話の通信状況が悪く、先発していた隊からの情報がほとんど入りませんでした。道路も寸断されていて、どのルートを通ればいいのかも分からない、そんな状況でした。

派遣は元日の20時40分ごろ、大阪府統合機動部隊として大阪市消防局を出発しました。進出拠点の金沢競馬場に着いたのが、2日の午前3時過ぎ。そこから命を受けた輪島に到着するまでが大変で、崩れた土砂をかき分け、重機で岩石を取り除き、段差を砂利で埋めながら、なんとか突破していく。そうやって切り開いた道も、その後に続いた余震で再び使えなくなり、後発部隊は通行できなかった

―到着してすぐに活動されたのですか？

た……そんなギリギリの状況で9時間ほどかかりましたが、なんとか輪島市に到着しました。

輪島市に着いた時点で、市民から寄せられた救助要請が多数あり、現地の消防のみでは対応しきれない状況でした。その夜のうちに、我々に割り当てられたいくつかの現場に向かいましたが、雨が降り、辺りは暗く周りを見渡せない中、二次災害の危険性が高く、対応は翌日にすべきだと判断しました。多数の木造家屋が倒壊し、電線も垂れ下がっている……そんな市街地の異様な状況からして、要救助者が多数居られると感じました。悔しいですが、危険な状況でやみくもに搜索しても、時間がかかります。救助を必要とされる場所を把握している指揮本部に戻り、情報をつかむことにしました。

河井町で7階建てのビルの倒壊現場に出くわしたのは、3日朝のことでした。実はこの事案は、我々に割り当てられたものではなかったのですが、倒れたビルに押しつぶされた木

造家屋付近で、何かを懸命に探している男性の姿がありました。聞くと、身内が倒壊した家屋に取り残されて、その場を離れられないということでした。コンクリート造のビルに3階建ての木造家屋が完全に押しつぶされており、この事案の困難性の高さからして、特別高度救助隊でなければ活動は難しいと考え、指揮本部に報告して予定を変更し、救助活動を開始しました。余震が続いてビルがさらに倒壊する危険もある中、我々の安全も確保しなければならぬという、非常に危険な現場でした。さらに建物倒壊が進まないようレスキューサポートシステムで支えた上での作業ですが、大きな余震が発生する度に倒壊現場から緊急退避するという、非常に緊迫した中の活動でした。

9時半に活動を開始して23時までかかりましたが、取り残されていた方をご家族のもとへ引き渡すことができました。どんなに困難に思われても、やれる活動をすれば状況は変わってくる……そう信じて活動すれば、何か見えてくるものがある、そんなことを再認識した事案でした。



―活動全体を振り返ってのコメントをお願いします。

何より思うのは、これまでやってきた大規模災害などの訓練経験が役に立ったということです。閉鎖空間からの救出、現場での指揮から資器材のメンテナンスまで、起こり得るトラブルをある程度イメージできないと、対応できなかったと思います。

最終日も、大阪へ戻るギリギリの時間まで活動に当たっていましたので、体力的には限界のはずなのに、不思議と疲れたという感覚はなくて、帰りの車の中でも、これからの訓練のことなんかを隊員達と話したりしていました。国際消防救助隊員として、耐火建築物に対処する訓練を多く経験してきましたが、日本特有の災害として、今後は木造家屋についても同様に対応していく必要があるかもしれません。あの現場で起きたことを伝え、訓練を繰り返す行方。これも、経験した者としての責務かなと思っています。

## 「現場を支える」活動を振り返って



山中 勉

大阪市消防局警防部司令課 副課長  
緊急消防援助隊大阪大隊  
後方支援中隊長

後方支援中隊長として、隊員の食料・宿営場所の調整や燃料の調達など後方支援活動の指揮を執った。

―発災時にまず思ったことはなんですか？

元日の夕方、街なかをウォーキングしている時に、いきなりグラツと揺れがきて、自分の具合が悪くなったのかな？と一瞬、思いましたが、スマホを見ると大阪で震度4、石川は震度7……石川県といえば、去年の春に大きな地震があったばかり。すぐに帰宅して、消防局に向かいました。

指揮支援隊の派遣は、ほぼ確実だとは思いましたが、当初は自分が石川県に向かうことになるとは思っていませんでした。しかし、北陸方面の状況が思いのほか良くないことが次第に分かってきました。その後、大阪府隊の派遣が正式に決定したので、すぐに後方支援隊としての準備を始め、集合場所の高度専門教育訓練センターへ……。物資や機材を積み込んで出発したのは、2日の深夜3時頃でした。

―活動開始時の様子をお聞かせください。

総務省消防庁から連絡を受け、進出拠点として金沢競馬場へ向かいました。到着したの

―後方支援の隊長として、どんな思いで活動されましたか？

後方支援隊の活動は、現場の活動を支えることに尽きます。縁の下の力持ちというか、存在としては目立たないことが多いが、現場で活動している隊員達を全力でバックアップしてほしい……。後方支援に当たる隊員達には、進出拠点の金沢競馬場で、まずこのことを伝えました。

冷たい食事も、眠れない夜も、派遣されている我々は数日我慢すればいいだけのこと。しかし、被災された方々はずっとそれが続いてしまうわけで、愚痴なんて言うてはいられない……。全力でがんばってくれた隊員たち一人ひとりが、そんな気持ちでいたに違いないと思うとともに、どんな状況においても決して弱音を吐かず、任務を全うしてくれたことに感謝しています。

最後に、この度の災害などで被災された方々が、一日も早く日常を取り戻されるよう、心から祈っています。

## タイボウタイレス



宿営場所の河原田小学校（1月2日午後）

は2日のお昼過ぎで、一足先に到着していた大阪府隊に、昼食としてパンを配ったのが最初の活動でした。その後が大変だったというか、とにかくもどかしかったのは、活動すべき輪島になかなか向かえなかったことです。宿営場所として、輪島市内にある河原田小学校を使わせていただけることにはなったのですが、大阪府隊も我々後方支援隊も、道路が寸断されて陸路を確保できない。大阪市消防局指揮支援隊をはじめ、大阪府統合機動部隊は

先に輪島市入りしていましたが、彼らから得た情報も頼れないほど、余震等の影響により、状況は刻々と変わり続けていました。

それでも、輪島市内で活動する隊員たちに、食料をはじめ、様々な物資を運ばなければならぬ。なんとかしなければと、海上保安庁の船で隊員と物資を搬送したのですが、海底だった部分が隆起して陸地になってしまったため船が着岸できないことが現地に行ってから判明。小さなボートでなんとか着岸できましたが、港の被害もひどかったです。

小さな車ならなんとか進める道を確認して陸路でも向かいましたが、車両が小さいと、どうしても運べるものが限られてしまうので、現地で活動している隊員たちに冷たいご飯と水しか用意できない状況が続きました。金沢市内で調達した缶詰を提供できるまでに、数日かかってしまったことも心残りです。宿営場所の小学校も被災しており、窓ガラスが割れて吹きさらし。夜も寒すぎて眠れず、体力の消耗も激しい中、せめて温かい食事と思うのにそれができなかった。本当に申し訳なかったですね。